

第9回四国中央市障害児等福祉審議会会議録

日時 平成28年8月18日(木) 15:00～

場所 消防防災センター3階 大会議室

出席者名(敬称略)

委員

藤枝俊之、山内紀子、東誠、井原佳代、福田裕史、合田志保、井上陽子、立花清香

事務局

加地宣幸、戸田克明、石川光伸、曾我部公恵、近藤心平

1. 開会

委員長	暑い日が続いており、このまま2学期が始まると子供達は大変かもしれない。 パレットの工事も着々と進んでいることが外からもわかる。
-----	--

2. 議事

(1) 第8回審議会会議録の確認

事務局	《会議録を説明。内容省略》
-----	---------------

委員	承認
----	----

(2) 市民ニーズの整理と施策案について(継続)

事務局	《施策の修正案を説明。内容省略》
-----	------------------

委員長	何か意見はないか。
-----	-----------

副委員長	テーマ「育ち育てる」の、「児童精神科の開設、リハビリ機能充実の働きかけ」は、見出しは決まっているが、具体的な内容が決まっておらず悩ましいところ。
------	--

事務局	医療施設の設置に対する要望は多くいただいているが、市の施策で取り組める範囲を超えてしまっている。
-----	--

副委員長	情報を収集し、国や県の助成事業などと抱き合わせて、医療機関に働きかけることもできるのではないか。また、この町にとって必要な施設であれば、市が助成することも考えられると思う。
------	--

副委員長	リハビリと療育は似て非なるもの。施策の対象者の年齢も考慮して考えたい。
------	-------------------------------------

事務局	児童リハビリに対する需要は高いが、医療行為であるため、本施策で限定的な表現はせず、療育を含めた表現にしたい。
副委員長	「児童発達支援の充実」はすでに取り組んでいることでもあり、「児童発達支援のさらなる充実」に改めたい。
事務局	今回新たに提案させてもらった「pal 制度」については、名称も含めてどう思うか。
副委員長	お年を召した方には解りづらいかもしれない。
事務局	注釈をつけるなどしてそのまま使用したい。
委員長	事務局にはこれらの意見を踏まえて、施策の内容を修正していただきたい。

(3) 計画の構成について

事務局	《計画のサンプルを用いて構成を説明。内容省略》
委員長	サンプルを見て思いついたことがあれば、どんな事でも構わないので意見をいただきたい。
副委員長	「本市の現状」の気づきの部分に、個別健診を加えてほしい。先日、重症心身障害児の支援をしている機関の集まりに参加したのだが、重症心身障害児は基幹病院で医療や健診を受け、在宅をサポートするところとの繋がりがなく在宅へ移っているため、地域にデビューする時期が遅い。そこで健診を活用しようという流れができた。個別健診は今まで以上に重要になってくる。また、妊婦健診についても触れたい。特別支援学校や、学校に行けていない子どもの事について書かれていないのはなぜか。
事務局	資料が間に合わなかったため今回は掲載していない。これから記述していく。
副委員長	知的障害のある人への配慮としてルビをふっているのだと思うが、他にも視覚障害やディスレクシアのある人への配慮はどうなるのかという事になる。あえてルビにこだわる必要はないのではないか。この計画を基に、これらの障害がある人への配慮をどうするかという議論に展開していくこともできる。
事務局	ルビをふった計画をホームページで公開したり、音声で記録した CD を作成したりするなど、別の形で配慮することを考えていきたい。
山内委員	この計画を誰に読んでもらうことを願っているのか。

事務局 まず、市の障害児等施策を計画的に進めていくことを目的としているが、市の現状や今後の取り組みを、可能な限り多くの人に読んでもらいたい。障害児等施策の広報としての効果も期待している。

山内委員 市報と一緒に配布することはできないか。

事務局 冊子を配布することはできないが、ダイジェスト版を配布したり、市報で特集を組んでもらったりと、市報の活用については担当と協議したい。

井上委員 palette に行かないともらえないような冊子ではいけない。

事務局 様々な場所で手にとってもらえるようにしたい。

井上委員 palette の開所時には専用のウェブサイトもほしい。

副委員長 情報支援は重要なテーマになる。ボランティアや当事者の力を借りることも考え、情報支援を推進したい。
なお、市の情報インフラはとても使いにくい。まずは既存のインフラを用いるが、いずれはそこから切り離すことも考えたい。

山内委員 palette を利用しそうな人が見そうなウェブサイトとリンクするなどして誘導したい。

井上委員 今の保護者はすぐにスマートフォンでインターネットから情報を得ようとする。palette の情報にアクセスしやすいよう整えてほしい。

立花委員 紙媒体を好む人もいるので、毎月 palette の情報を掲載したものを配布してほしい。

事務局 情報の発信の手段として、刊行物の発行ができないか考えている。
行政主体でなく、当事者やボランティアの力を活用した形で発行できるのが理想。

副委員長 行政は多忙で細かな情報の提供まで手が回っていない。外郭でそれを賄おうという気運は高まってくると思う。まずこういったことを考えること自体を、これから始めていきたい。

事務局 計画の構成についてはどうか。

井上委員 見やすいと思う。

合田委員 施策の部分で、「想定される担当」の項目が空白になっているところがある。複数の部署や機関が関係するなどで、記述が難しいとは思うのだが、空白だと気になる。

事務局 ご指摘のとおりであり、完成までには何らかの表現により空白を埋めたいと思う。

- 合田委員 施策を実行する担当がわかるのはとても良いことだと思うが、空白だと読んだ人が困ってしまう。
palette がどこかの部署と連携して施策を進めるのであれば、担当を記述する必要はないのではないか。
- 副委員長 担当を記述することで、縦割り行政というイメージを与える恐れがある。
- 事務局 担当を記述するかどうかも含めて検討する。
- 福田委員 第2章の現状の部分で、国の動向を記述するようになっているが、療育センターなど県立の施設もあるので、県の取り組みも掲載すべきではないか。現状整理は、ニーズや施策に結びついてくるので、読む人にとってもその方が解りやすいのではないか。
- 井上委員 支援学校も県立であるが、知られていないことが多い。
- 副委員長 教育に関しては特に県が存在が大きい、押さえておかなければならない。
施策の実施目標時期については、「あるといいな」というレベルでの目標なのか。
- 事務局 「あるといいな」という施策はひとつも考えていない。「こうしましょう」というものを考え、計画に掲載している。
時期については、今回サンプルとして事務局案を記述しているので、これについてもご審議いただきたい。
- 副委員長 「実施目標時期」というのはわかりにくい。すぐに着手するもの、そうでないものを優先度で示した方が良いのではないか。
- 事務局 優先度とした場合、早く実施したいものを高くするのか、取りかかり易いものを高くするのかで変わってくる。条件整備が難しい。
- 副委員長 実施目標時期を決めてしまうのは危険かもしれない。
- 事務局 「優先度が低い施策」というのはいかなものか。今回の施策は重要なものばかり集めたものであると思っている。実施目標時期というのは、関係機関との調整なども含めて必要な時間を考慮し示している。
- 委員長 施策を優先度の高い低いで表すと、実施に時間がかかるものについては、「優先度が高いにもかかわらず実現できていない」という評価になる。実施目標としている時期はこれくらいだと示す方が良いと思う。「優劣」と捉えられるようなことはしたくない。
- 副委員長 子どもは育っている。実施目標が中期としている施策などは、今この施策を必要としている子どもは利用することができないことになる。これを見た保護者はどう思うだろうか。

井上委員	保護者は「満たされない」と感じると思う。
副委員長	児童を対象としていることの難しさがここにある。
立花委員	いっそ目標時期を項目から無くしてはどうか。あると保護者は期待してしまう。Paletteの建設も当初よりだいぶ遅れている。
副委員長	実行力があるのであれば時期を書いても良いが、そうでなければ絵に描いた餅になってしまう。
事務局	施策を実行する上で、予算や支援者の確保、関係機関との連携などで実働部隊となる行政職員としては、明確な目標時期がある方が良い。担当職員は3年ぐらいで代わってしまうので、停滞させないためにも必要だと考えた。
副委員長	基本計画と実施計画に分ける方法もある。
事務局	実行力のある具体的な計画を目指して作成している。
合田委員	施策を実施するまでの具体的な作業スケジュールがあつての目標設定なのか。
事務局	作業に要する時間を積み上げて目標時期を設定しているわけではない。目標時期を設定して、それに向けて具体的な実行スケジュールを考えたいと思っている。
合田委員	3年後に実施するとした場合、それまで何もしていないと捉えられるかもしれない。実施スケジュールを考えることが大切なのではないか。
事務局	できることであればしたいが、32ある施策の全てについて、作業レベルのスケジュールを考えることは、時間的に不可能である。
合田委員	目標時期を設定する事が良いか悪いかはわからないが、これを見た人は期待するので、それに応えるようにしなければならない。
立花委員	「市が考えてくれている」という安心感はある。
副委員長	長期の目標を立てるとしても、10年後にどうなっているかわからない。
事務局	本計画は、10年計画の5年見直しと思っている。その時の状況も踏まえて、計画を修正したい。
井原委員	5歳児健診の注釈にあるデータが10年前と古く、ここからさらに10年後の計画を立てるのは無理がある。現状を捉えることが大切である。

- 副委員長 この審議会において、実施目標時期を決めることができるのだろうか。施策の実行に必要な行政内での作業は計ることができない。
- 立花委員 テーマ「応えつなげる」の「相談コンシェルジュの配置」は、palette 開設時には実現をお願いしたい。
- 井上委員 palette の開所に、保護者が体感できるこれまでとの違いはあるのか。
- 事務局 コンシェルジュの配置も、以前から要望の多い放課後等デイサービスの拡大も、職員が配置できれば可能となる。募集している新規採用職員が募集どおり揃えばこれまでよりもサービスが充実することは間違いない。
- 副委員長 人材の誘致活動をするという議論に至っていないことが、この町の医療福祉施策の難しいところ。学校は誘致できたが、定着するような施策を講じていない。人材確保のための活動はしているのか。
- 福田委員 本校に市から求人はあったが、言語聴覚士についていえば、入学時点で定員を割っており、その中で小児となるとさらに減ってしまい、求人に応えられない現状がある。
- 副委員長 高校卒業後に、福祉分野の学校へ進学した生徒を把握していなければ、就職で戻ってくるタイミングを計ることができない。それぐらいの事をしなければ、地元には戻ってこない。
高校時代にボランティアや体験学習で関心を持ってもらい、つなぎ止めるシステムが求められる。
- 山内委員 地元こだわらず幅広く求人をしないと集まらない。またこの分野は児童より高齢者の方がニーズが高く、求人としては安定している。子どものために働きたいと思っている人の目に留まるような求人の仕方をしなければ集まらない。公務員という待遇であれば、ある程度の条件を出せば、可能性としてはあると思う。なりふりかまっていられない。
- 副委員長 保育士不足を解消するために、家賃を補助しているところもある。そこまでしないと確保できない時代になっている。もっとアクティブにしなければならないが、それは行政だけでなく、保護者にも言えること。
専門職の仕事観は、その能力だけでなく、生きがいとの組み合わせにある。
- 福田委員 専門職に対する求人は多いが、看護に比べてリハ関係は少ない。リーマンショック以来、医療・福祉分野への関心が低くなっている。本校の介護福祉士コースも廃止されることになった。
- 副委員長 人間を集めることに全ての力を注がなくてはいけない。それ以外の施策は後に回してもかまわない。

- 福田委員 本校では、関心を持ってもらうために、中学校の職業体験で来てもらっている。早くからの意識付けが必要。
- 井原委員 人材が集まらないことを理由に、施策が全く進まないということではいけない。委託など地域の資源を活用することも考え、並行して自前でできるよう人材を揃えていけば良い。外部の専門家を活用することも含めた連携をしてはどうだろうか。実習生の募集から卒業までには数年要するなど、人材確保には時間がかかる。その間を埋める方法も含めて計画しなければならない。
- 副委員長 人があれば動くもの、施設があれば動くもの、お金があれば動くもの、これらは時間を要する。しかしそうでないものは、すぐにできるものである。そういう感覚で計画を作っていく必要がある。
- 委員長 palette の開所時にできることと、今後の目標という視点で整理すれば、計画を見た人も納得するのではないか。
- 井原委員 新卒の専門家を雇ったからといって、すぐに戦力になるかと言われれば、そうではない。人材育成に時間がかかる。
- 山内委員 日本の人口構成を考えると、退職者を活用することも考えられる手段だと思う。
- 副委員長 今、実際に子どもや保護者に対応する職員はいるが、施策の実施のために動ける職員はいるのか。いないのであれば作っていかなければならない。
- 事務局 職員の配置は基本的に4月1日付けとなる。今すぐにというわけにはいかない。今、採用試験に応募していただいている方に、がんばって試験に通っていただくことを期待するしかない。
- 副委員長 palette 開所時に何ができるか。それが一番重要だと思う。
- 事務局 できることはしたいと考えており、ペアレント・メンターなど支援者の養成に関する予算を来年度予算に計上する準備をしている。
- 副委員長 こけら落としでしかつかない大きな予算を使って、その後につながる、幹のようなも事業をしなければならない。
- 事務局 設備的な予算はつけてもらえると思っている。
- 副委員長 情報インフラのような導入に大きな予算を要するものをしたい。人件費については、いつの段階で要求するのか。
- 事務局 すでに人事課とは協議を重ねており、今年度も採用枠を用意してもらっている。

副委員長	支援者を養成するための外部講師の予算は、初年度の方がつきやすいのではないか。
委員長	本日の意見について事務局で検討し、整理し資料を修正していただきたい。継続審議とする。

(3) その他

事務局 アンケート結果のとりまとめが終わっているので、ホームページ上で公表したい。

委員 承認

事務局 次回日程は予定どおり9月29日(木) 15:00～、場所は消防防災センター3階大会議室で行う。

事務局 伊予三島ライオンズクラブから、paletteの備品を寄附してもらえることになった。本日のテレビニュース等で報道されるので見ていただきたい。

副委員長 継続的に支援を呼び込んでいきたい。

井原委員 8月24日に自立支援協議会就労支援部会が主催で「就職準備フェア」を土居文化会館で行う。

3. 閉会

副委員長 骨格が見えてくれば新たな課題も見えてくる。長期的な視野と短期的な視野でどう進めていくか、舵取りが難しいのだが、皆で1歩ではなく1.5歩ずつ進めていきたい。